

目次

はじめに

第1部 論文の対策方法

第1章 本書を手にしたら読んでみる

- 1.1 効果を出すことに急いでいる方は読んでみる 12
- 1.2 大人の学習を後押しする理由をもってみる 17
- 1.3 情報処理技術者試験のマイナスイメージを払拭してみる 19
- 1.4 “小論文なんて書けない”について考えてみる 22
- 1.5 本書の第一印象を変えてみる 24

第2章 論述式試験を突破する

- 2.1 論述式試験とは何なのか 28
- 2.2 採点者を意識して論述する 33
- 2.3 論述式試験突破に必要な要素を明らかにする 38
- 2.4 論文を評価する 41

第3章 基礎編

- 3.1 五つの訓練で論文が書けるようになる 50
- 3.2 【訓練1】「論文ふう」の文章を書く 51
- 3.3 【訓練2】トピックを詳細化して段落にする 56

第4章 論文を作成する際の約束ごとを確認する

- 4.1 試験で指示された約束ごとを確認する 62
- 4.2 全試験区分に共通する論述の約束ごとを確認する 68

第5章 論文を設計して書く演習をする

- 5.1 【訓練3】問題文にトピックを書き込む 72
- 5.2 【訓練4】ワークシートに記入する 75

5.3 【訓練5】ワークシートを基に論述する 84

第6章 書き直してみる

6.1 添削を受けて論文を書き直す 94

第7章 本試験に備える

7.1 2時間で論述を終了させるために決めておくこと 108
7.2 試験前日にすること 112
7.3 本試験中に困ったときにすること 120

第8章 受験者の問題を解消する

8.1 学習を始めるに当たっての不明な点を解消する 124
8.2 学習中の問題を解消する 127
8.3 試験前の問題を解消する 135
8.4 不合格への対策を講じる 137

第2部 論文事例

第1章 進捗管理

平成25年度 問2 システム開発プロジェクトにおける
トレードオフの解消について 144
論文事例：岡山 昌二 145
平成24年度 問3 システム開発プロジェクトにおける利害の
調整について 150
論文事例：岡山 昌二 151
平成22年度 問3 システム開発プロジェクトにおける
進捗管理について 156
論文事例1：佐々木 章二 157
論文事例2：満川 一彦 162

平成 20 年度	問 1	情報システム開発プロジェクトにおける 利用部門の参加について ……………	168
		論文事例：岡山 昌二 ……………	169
平成 19 年度	問 1	情報システム開発プロジェクトにおける 交渉による問題解決について ……………	174
		論文事例：佐々木 章二 ……………	175

第 2 章

品質管理

平成 25 年度	問 3	システム開発プロジェクトにおける工程の 完了評価について ……………	182
		論文事例：満川 一彦 ……………	183
平成 23 年度	問 2	システム開発プロジェクトにおける 品質確保策について ……………	188
		論文事例：岡山 昌二 ……………	189
平成 21 年度	問 2	設計工程における品質目標達成のための 施策と活動について ……………	194
		論文事例 1：岡山 昌二 ……………	195
		論文事例 2：長嶋 仁 ……………	200
平成 20 年度	問 3	情報システム開発プロジェクトの完了時の 評価について ……………	206
		論文事例：岡山 昌二 ……………	207
平成 19 年度	問 3	情報システム開発における品質を確保するための 活動計画について ……………	212
		論文事例：佐々木 章二 ……………	213

第 3 章

費用管理

平成 24 年度	問 2	システム開発プロジェクトにおける スコープのマネジメントについて ……………	218
		論文事例：長嶋 仁 ……………	219
平成 23 年度	問 1	システム開発プロジェクトにおける コストのマネジメントについて ……………	224
		論文事例：落合 和雄 ……………	225

第4章

組織要員管理

平成 26 年度	問 2	システム開発プロジェクトにおける要員の マネジメントについて ……………	232
		論文事例 1：岡山 昌二 ……………	233
		論文事例 2：落合 和雄 ……………	238
平成 23 年度	問 3	システム開発プロジェクトにおける組織要員 管理について ……………	244
		論文事例：岡山 昌二 ……………	245
平成 22 年度	問 2	システム開発プロジェクトにおける 業務の分担について ……………	250
		論文事例 1：岡山 昌二 ……………	251
		論文事例 2：長嶋 仁 ……………	256
平成 21 年度	問 1	システム開発プロジェクトにおける 動機付けについて ……………	262
		論文事例 1：岡山 昌二 ……………	263
		論文事例 2：佐々木 章二 ……………	268
平成 20 年度	問 2	情報システム開発における問題解決について……	274
		論文事例：岡山 昌二 ……………	275
平成 19 年度	問 2	情報システムの本稼働開始について ……………	280
		論文事例：清水 順夫 ……………	281

第5章

調達管理

平成 21 年度	問 3	業務パッケージを採用した 情報システム開発プロジェクトについて……	286
		論文事例 1：岡山 昌二 ……………	287
		論文事例 2：落合 和雄 ……………	292

第6章

リスク管理

平成 26 年度	問 1	システム開発プロジェクトにおける工数の 見積りとコントロールについて ……………	298
		論文事例 1：岡山 昌二 ……………	299

	論文事例2：長嶋 仁	304
平成 25 年度 問 1	システム開発業務における情報セキュリティの確保について	310
	論文事例：岡山 昌二	311
平成 24 年度 問 1	システム開発プロジェクトにおける要件定義のマネジメントについて	316
	論文事例：岡山 昌二	317
平成 22 年度 問 1	システム開発プロジェクトのリスク対応計画について	322
	論文事例 1：岡山 昌二	323
	論文事例 2：落合 和雄	328
過去問題の出題テーマとポイント		333
事例作成者の紹介と一言アドバイス		351
参考文献		

大人の学習を後押しする理由をもっとみる

20年以上前ですが、私は「ペン習字」を通信教育で受講したことがあります。結局、字が上手になったのは、私の妻でした。このように大人の学習には、学習の前に解決すべき課題があります。そのお手伝いをしたいと思い、次のトピックを書いてみました。

- (1)勉強する気がしないことを克服する
- (2)仕事が忙しいことを理由から除外する

ここではっきりと明言します。ここまで読んだだけでも、私よりも皆さんは立派です。理由は、受講中に私はペン習字の本を一度も開かなかったからです。では、(1)、(2)のトピックについて皆さんと一緒に考えてみましょう。

(1) 勉強する気がしないことを克服する

本書を手にしたけど、勉強する気がしないという皆さん、本書を手にした理由を考えてみてください。例えば、次のような理由があるでしょう。

- ①会社の上司から「情報処理技術者試験に合格しなさい」と言われたから
- ②会社の同期や同僚に受験を誘われたから
- ③仕事が暇でやることがないから

では、このような理由では、なぜ勉強する気がしないのでしょうか。勉強する気がしない理由の共通点として、これらが“外的な要因”である点を挙げることができます。会社の上司、同期や同僚からのプレッシャー、指示や誘い、仕事が暇、これらは外的な要因です。そうです。大人は外的な要因では、学習することができないのです。

外的な要因では学習意欲がわかないことは分かりましたから、内的な要因を探してみましょう。

皆さんは、午後I記述試験の問題を読んでみて、「解けるようになったら面白そう」、あるいは、「情報処理技術者試験に合格したら、私の人生は変わる」などと思いませんか？あるいは、「会社に入って、このままでよいのかなあ」などという心配ごとはありませんか？このような“興味”、“期待”、“心配”といった感情は、誰からも強制されていない、内なる自分から出た感情です。「情報処理技術者試験に合格して自分の人生を少し変えてみたい」、「客観的に評価される実力を身に付けることで心配ごとを早く解決したい」などの思いは、大人の学習を後押しする“理由”になります。

皆さん、内なる思いを探して、それを基に大人の学習の理由付けをしてみてください。

1.4

“小論文なんて書けない” について考えてみる

多くの受験者の方は、午後Ⅱ論述式試験の試験問題を読むと、“書けない”、“解けない”、“無理”と思ってしまいます。このような印象を“よし”として、受け入れてしまってください。これから本書を活用して学習したとしても、本番の試験のときに初めて見る試験問題に対して、今と同じように、“書けない”、“解けない”、“無理”と思うことは違いはないでしょう。それでよいのです。

では、本書を活用して学習した結果、何が変わるのでしょくか。それは“専門家として考えをアピールしながら、問題文の趣旨に沿って設問文に答えるための論述テクニックを実装できている点”です。本書で解説している論述テクニックを活用して、本番の試験では、初めて見る試験問題に対して、“書けない”、“解けない”、“無理”と思いつながら、**一生懸命考えながら合格論文を仕上げる**ことができるようになりましょく。

本書の前身は、午後Ⅱ論述式試験のある複数の試験区分の情報処理技術者試験を対象とした一冊の本でした。その本を一冊購入すると、プロジェクトマネージャ試験やシステム監査技術者試験など、全ての試験区分の午後Ⅱ論述式試験をフォローすることができました。ここで言いたいことは、午後Ⅱ論述式試験突破のコツは、複数の試験区分の情報処理技術者試験に共通しているということです。実際に、ある会社の秋のシステムアーキテクト試験の合格者は、翌年に行われた春のプロジェクトマネージャ試験に2年連続で全員合格しています。その午後Ⅱ論述式試験共通の合格のコツを本書から学び取りましょく。

書けない理由として、次のトピックについて考えてみます。

- (1) 経験がないから書けない
- (2) 小論文に書くネタがないから書けない

なお、これらの他にも、字が汚いから自信がない、などありますが、字は汚くとも読めれば問題ありません。

(1) 経験がないから書けない

小論文の書き方が分からない方は、“急がば回れ”です。本書の演習を飛ばさず、始めから取り組み、論述テクニックを習得してましょく。大変ですが、小論文の書き方には共通点があります。苦勞しても習得してしまえば、他の試験区分の受験勉強も楽になります。

“経験がないから書けない”について書いてましょく。大丈夫です。実は、実務経験は必須ではありません。

3.1

五つの訓練で論文を書けるようになる

これから、論述式試験を突破するために必要な訓練を行います。簡単な訓練から始めますが、それぞれの訓練には、意味があります。例えば、【訓練 1】では作文を書きますが、この訓練によって、「また、～した。また、～した」という語尾が「した」の連続になる「作文」を書かなくなります。【訓練 2】では、トピックを詳細化しますが、数値を文章の中に入れ、定量的に表現する訓練によって、客観性の高い文章を書けるようになります。

「急がば回れ」です。少し時間がかかりますが、しっかりと訓練に参加しましょう。

(1) 論文が書けるようになる五つの訓練を知る

記述式問題を突破できるということは、80 字程度の記述力があるということです。次に、80 字の記述力を、2 時間で 2,400 字程度を書ける論述力にアップするための訓練について説明します。

①【訓練 1】「論文ふう」の文章を書く

最初に、「作文」と「論文」との文章の違いについて理解しましょう。まずは、小学生の気持ちになって、気楽に文章を書いてみましょう。

②【訓練 2】トピックを詳細化して段落にする

一つのトピックに基づいて文章を書いてみましょう。これは記述式問題の解答を、論述式問題の解答にステップアップさせる第 1 段階です。

③【訓練 3】問題文にトピックを書き込む

問題文には論述に必要なトピックが書かれていることは、既に説明しました。しかし、これだけでは、論文は書けません。問題文を基にして、もっとトピックを挙げましょう。

④【訓練 4】ワークシートに記入する

ワークシートを使って論文を設計してみましょう。3 回くらいワークシートを使った訓練を行えば、ワークシートがなくても、論文を設計できるようになります。

⑤【訓練 5】ワークシートを基に論述する

ワークシートができ上がったら、そこに書かれているトピックを基にして論述します。ここでは、「【訓練 2】トピックを詳細化して段落にする」で訓練したテクニックを使って、論述することを学びます。

上記の訓練については、【訓練 1】を本章の 3.2 で、【訓練 2】を 3.3 で、また、【訓練 3】～【訓練 5】は第 5 章で詳しく説明しています。順を追って訓練し、論述式試験突破に向けた論述力を身に付けましょう。

(5) 設問アの後半をワークシートに記入する

この問題では、“1.2 稼働開始時期が決定された背景”という章立てになります。章立てに使われているキーワード、“稼働開始時期が決定された背景”という言葉を使って文章表現することが重要です。

(6) 設問イをワークシートに記入する

ワークシートの設問イに該当する箇所を確認してください。

(課題) ⇒ (活動案1) ⇒ (活動案2) ⇒ (活動案3) ⇒ (選択した活動と根拠)
⇒ (活動を選択すると生じる新たな課題・リスク) ⇒ (新たな課題・リスクを解決するための活動)

このように、上から下への流れになっていることが分かります。この流れが、論旨展開のひな型と考えてください。活動案 1～3 は課題を解決するための検討案と考えてください。

なお、ワークシートでは、上から下への流れが縦に 2 列になっています。これは、複数の課題を並行して論じるためのです。例えば、二つの課題について論旨展開をしたい場合に使います。

ワークシートに書かれているトピックを文章にすると次のようになります。ワークシートの該当箇所と対応させています。

	試用版のソフトウェアパッケージのリリースを 1 か月	
(課題)	早めて、なおかつ、本番版の稼働開始時期を満足するこ	(活動案1)
	とが課題となった。そこで私の実務経験から、①クラッ	
(活動案2)	シング、②ファウスト・トラッキング、③ステーキホル	(活動案3)
	ダへの成果物の確認という案を検討した。その結果、③	
(選択した活動と根拠)	を選択することした。なぜならば、①は費用超過のリス	
	クが高まり、②は開発の手戻りのリスクが高まる。一方、	
	③を選択することで、成果物を優先順位付けができ、費	
	用やスケジュール面での無駄を事前に省け、結果的に試	
	用版のリリースを早められると考えたからである。	
	確認の結果、本番版の全てではなく、試用版では特定	
	の OS と DBMS で稼働する試用版のリリースで済むことが判	
	明した。	
(活動を選択すると生じる新たな課題・リスク)	ただし、具体的にどのように試用版のリリースを早め	
	るかという新たな課題が生じた。そこで私は、特定の OS	
	と DBMS で稼働する試用版のリリースを早めるために、総	
(新たな課題・リスクを解決するための活動)	合テストを分割し、試用版を総合テスト I、本番版を総	
	合テスト II とし、試用版の総合テスト I に資源を集中さ	

Just Do it! 関所 No.4

“巻末ワークシート 2 裏”の“【訓練 3】 問題文にトピックを書き込む（演習用オリジナル問題）”にある問題を使って、演習を行ってください。問題文の趣旨に沿って、一人でブレインストーミングをする感じで、自分の言葉でキーワードやトピックを書き込んでみましょう。

それが終わったら、次の説明に従って①章立てをして、②章立ての各節と問題文にある文章とを関連付けをします。この作業によって、章立ての各節では、どのような内容を書けば問題文の趣旨に沿うことができるかが分かります。この作業は(1)章立てをする、(2)トピックを決める、で説明した作業を、問題文を利用して効率的に行っていると考えると、分かりやすいと思います。

次に設問イについてもう少し詳しく説明します。

① 章立て

“巻末ワークシート 2 表”に“【訓練 4】 ワークシートに記入する（演習用オリジナル問題 記入例）”という記入済みのワークシートがあります。これは、“演習用オリジナル問題”の記入例のサンプルです。これを見ると章立ての例が分かるように書いてあります。

“演習用オリジナル問題”の設問イには、「設問アで述べたプロジェクトにおいて発生した問題の解決のための活動のうち、説得しようとした内容と譲歩しようとした内容はどのようなものであったか。関係者の考え方や立場の違いを踏まえて、800 字以上 1,600 字以内で具体的に述べよ」と記述されています。ここで、「関係者の考え方や立場の違いを踏まえて」とあるので、これを先に論述する必要があります。したがって、第 2 章 1 節では、“2.1 関係者の考え方や立場の違い”という章立てにします。

なお、“第 2 章”の意味は、第 1 章が設問アであり、設問イはその次からです。設問ウは“第 3 章”になります。

設問イの後半は、「説得しようとした内容と譲歩しようとした内容はどのようなものであったか」と記述されているので、第 2 章 2 節では、“2.2 説得しようとした内容と譲歩した内容”とします。以上が節の章立てです。“章”についての章立ては、節をつなげて、第 2 章では、“第 2 章 関係者の考え方や立場の違いを踏まえた説得しようとした内容と譲歩した内容”とします。“巻末ワークシート 2 表”に“【訓練 4】 ワークシートに記入する（演習用オリジナル問題 記入例）”の章立てを確認してみてください。

6.1

添削を受けて論文を書き直す

(1) 添削を受ける

次の添削例を基にして、どのようなことがポイントになるのかを確認していきましょう。

下線①

顧客管理パッケージを SFA とし、採点者の興味を引きましよう。

下線②

解答者が A 社に勤務していることを明示してください。採点者があなたの立場を理解できません。

下線③

プロジェクトマネージャらしく、受身の表現ではなく、「構成した」と断言してください。

プロジェクトの特徴と制約条件を明示してそれを設問内で活用してください。

稼働開始時期が決定された背景を明示してください。「稼働開始時期が決定された背景は」という表現を入れましよう。

下線④

試用版のリリース日と稼働開始時期について、明確に説明ましよう。

下線⑤

文章がおかしいです。「満足させるスケジュールを作成した」と書くようにましよう。

第1章 プロジェクトの特徴及び稼働開始時期が決定された背景

れた背景

1.1 プロジェクトの特徴

SI企業であるA社は、5年前に①顧客管理パッケージ（以下、A社パッケージという）を開発・販売した。A社パッケージは、中堅企業を中心に幅広く導入され、ユーザの要望を反映した機能拡張も行われている。

②私をプロジェクトマネージャとし、共通機能開発チーム、インタフェース開発チーム、開発チーム、統括チーム③で構成されている。開発モデルは、旧ソフトウェアパッケージを開発した際と同じ、ウォーターフォールモデルを採用した。技法としては、オブジェクト分析・設計・プログラミング技法を採用した。

1.2 稼働開始時期が決定された背景

競合他社のB社が、競合するソフトウェアパッケージを日本でリリースすることが新聞発表された。これに対抗してA社では、新しいソフトウェアパッケージを開発することが役員会で承認された。

④稼働開始時期は、B社に後れをとらないために、B社が日本でパッケージをリリースする時期と同一時期と決定された。ただし、同一時期では、事実上の後れをとるため、試用版のリリースを稼働開始時期の2か月前としている。私は、新パッケージ開発プロジェクトのプロジェクトマネージャとして、試用版のリリース時期と、稼働開始時期を⑤満足させるために、要員への負荷の平準化に重点を置いてスケジュールを作成した。

100字

200字

300字

400字

500字

600字

700字

800字

7.1

2時間で論述を終了させるために決めておくこと

(1) 論述のマイルストーンと時間配分を決める

筆者自身の受験やセミナー経験に基づいて、次のようなマイルストーンを設定しています。

試験中は解答を書くことに精一杯の状態ですから、最小限のマイルストーンにすべきですし、所要時間には個人差があるからです。この例を参考にして、自分用のマイルストーンを設定してみてください。

14 : 30	試験開始 ①問題選択 論文設計 設問アの論述	① 試験開始～35分で設問アの論述を終了する 問題選択から、論文設計、設問アの論述終了までを35分で終了させます。慣れてくると30分くらいでできるようになるでしょう。
15 : 05	②設問イの論述 (設問イ、ウで75分)	② 40分前に設問イの論述を終了して10分前に設問ウを完了する 論文の中核となる、設問イとウを75分で書きます。設問イが45分、設問ウが30分ほどの配分になるでしょう。
15 : 50	②設問ウの論述 (設問イ、ウで75分)	ここまででは、集中して問題に取り組んでください。決して、設問イを書き終えただけでは安心しないでください。
16 : 20	③2分間の休憩	③ 2分間の休憩 あせって見直しをすると、消しゴムを使う際に、必要な箇所を消してしまったり、きちんと消されていないところに字を書いたりしてしまいます。そのようなことがないように、見直しをする前に2分間かけて気持ちを落ち着かせましょう。
16 : 22	④5分間の見直し	④ 5分間で論文の見直し 誤字、脱字、主語と述語の掛かり受けをチェックします。ここでは、しっかりと消しゴムで消して修正します。大幅な修正の場合は、残り時間を確認してから、修正を開始するようにしてください。残り時間がない場合は、修正をしないか、少ない修正で済むように工夫しましょう。 最後に、受験番号の記入、問題番号の選択など、合格に必須な要件をチェックします。答案用紙の間に挟まった消しゴムのカスをきちんと取り除いておきます。
16 : 27 16 : 30	⑤3分間の予備時間 試験終了	⑤ 3分間の予備時間 不測事態の発生に備えて、予備時間を3分間、確保しておきましょう。

8.1

学習を始めるに当たっての不明な点を解消する

筆者は応用情報技術者試験の対策セミナーの講師も務めていますが、その際、応用情報技術者試験に合格したら、次は何を受験するかという質問をすると、ネットワークやデータベースのスペシャリスト系を目指す方が圧倒的に多いことが分かります。スペシャリスト系以外のシステムアーキテクト、ストラテジ系やマネジメント系などの試験区別を受験しない理由を聞いてみると、実務経験がないから、論文があるから、などの回答をもらいます。しかし、マネジメント系やストラテジ系などの試験を目指さない本当の理由は、論文の書き方や合格レベルなど、論述式試験の実態がよく分からないからだと思います。

それについては、本書によってかなり理解が進んだと思います。しかし、学習の開始時点、中盤、仕上げ、それぞれの局面において不明な点があると思います。それらを、適宜、解消するために、この章を書いてみました。まずは、学習を始めるに当たっての不明な点を解消していきましょう。

(1) 学習を開始するに当たって不明な点を解消する

Q

学習以外に合格に必要な要素は何でしょうか？

A

動機付けと時間の有効活用です。

ある受験者が「先生、早く論文を書かせてください。去年、同期が合格して、私は不合格、同期には絶対に負けたくはない」と筆者に詰め寄ってきました。すごい気迫です。最終的に、この方は合格しました。でも、自己採点の午前試験がぎりぎりでした。私は、この「同期には絶対に負けたくない」という動機付けが、合格を引き寄せたと思っています。本番では、朝から試験を始めて、午後Ⅱの終盤は、もう夕方になってきます。この時点での踏ん張りを支えるのが、この動機付けです。学習を開始する前に、何を糧に合格を引き込むのかを決めるようにしましょう。

講師をしていて、「あなたは合格できるから大丈夫です」と言ってしまうことがあります。余計なプレッシャーを受講生に与えるので、本来は控えるべきです。それにもかかわらず、時間の有効活用をしている受講生を見てしまったとき、これを筆者は言ってしまう。忙しくて学習時間を確保できない理由は、幾らでもあります。例えば、講義開始を待つ時間が1分でもあれば、それを学習時間に回すべきです。

memo

第1章 プロジェクトの概要及び制約条件

1.1 プロジェクトの概要

論述の対象となるプロジェクトは、建設資材の原材料を製造・販売するA社におけるERPパッケージの導入プロジェクトである。当該プロジェクトにおいてA社は、以下に述べる問題が発生する時点では情報処理・提供サービス業のB社と要件定義では準委任契約を締結しており、外部設計以降は請負契約を結ぶ予定であった。

100字

200字

A社の基幹システムは老朽化が進み、保守コストの増大や保守期間の増加という問題が表面化していた。そのような背景の下、A社の経営陣は、基幹システムの導入・保守コスト削減を採用目的として、ERPパッケージ導入を決定した。

300字

私は、要件定義の終盤において、設問イにおいて述べる問題が発生した時点で、前プロジェクトマネージャ(以下、前PMという)に代わって新たに任命されたB社のプロジェクトマネージャ(以下、PMという)である。

400字

1.2 プロジェクトの制約条件

A社の経営陣は、原価管理システムを刷新して、月次決算を3営業日短縮することを株主総会で公表している。したがって、納期面での制約条件は納期厳守という点を挙げる事ができる。

500字

一方、A社では、基幹システムの導入・保守コスト削減を採用目的としている。そのため、A社では予算に余裕がない状況でB社にパッケージ導入を委託している。その結果、外部設計以降の請負契約の金額についても余裕がない状況であった。したがって、予算面での制約条件は、外部設計以降のA社予算に余裕がないという点を挙げる事ができる。

600字

700字

以上の制約条件の中で、要件定義の終盤で発生した、トレードオフにある問題を、私はPMの立場で、次のようにして解消して、プロジェクトを成功に導いた。

800字

論文事例 2

システム開発プロジェクトのリスク対応計画について (5/5)

平成 22 年度 問 1

memo

卸作業の負荷が軽減されるようにした。

3. 2 リスク対応計画の実施状況と評価

900字 これらのリスクと対応計画はすべてリスク登録簿に登録し、担当者と対応期限も明確にしておいた。これを使用して、担当者の実施状況を確認したために、この三つのリスクについては、予定どおりに対応を終えることができた。その他のリスクの幾つかについては、期限までに対応を終えることができないものもあったが、これらについて、課題ログを挙げさせ、再度、いつまでに完了させるかを明確にさせたので、重要なリスクに関しては、ほぼ対応計画の内容を完了させることができた。この結果、当初、懸念されたリスクについては、大きな問題にはならず、パッケージは無事カットオーバーし、順調に稼働を開始することができ、このようなリスクマネジメントを行うことの効果は大きかったと言える。

1200字 - 以上 -

1300字

1400字

1500字

1600字